

班と会員のみなさんへ



要求いっぱい、会員大募集！ どの班も仲間を増やして11月の 第32回全国大会を成功させましょう

みなさん、いかがお過ごしでしょうか。

物価高騰が生活を圧迫し、記録的な猛暑や豪雨災害が続くなか、あまりに無策な自公政権が、私たちのいのちと暮らしを脅かす日々です。また、政治家による女性べつ視や外国人差別の横行、身近ですすむ戦争準備、ウクライナやガザで止まらない殺戮などに、不安や怒りが広がっています。

こんななか、困ったことや政治のおかしさなど、なんでも安心して話せる、新婦人しんぶんを読んで大いにおしゃべりし、いっしょに声をあげ、行動する新婦人は、女性たちのかけがえのない存在であり、希望です。全国がつながって一人ひとりの生の声で自治体や国に迫り、選択的夫婦別姓法案の28年ぶりの国会審議へと政治を動かしています。要求いっぱい、今の今、この新婦人の仲間の輪が大きく広がるなら、生きづらい社会を変え、だれもが安心できる平和な社会への確かな力となるに違いありません。

班と会員のみなさん

11月2日、3日に開かれる第32回全国大会を、会員を増やし、いまより大きな班、新婦人になって迎え、成功させましょう。どの班もみんな次々のことを相談して、とりくみましょう。

○どの班もこの「よびかけ」を班会や要求別小組(サークル)例会で読み、みんなの意見を出し合って「前大会時より大きな班へ」と仲間づくりの相談をしましょう。

○しんぶん読者や知人、「秋の行動」など署名をよびかけた人、さまざまな運動でつながった人、元会員など誘いたい人をみんなで出し合い、「だれがいつ声をかける」かを決め、とりくみましょう。

○班会や行事、小組例会、スタンディングなどにゲストを誘い、「新婦人に入って一緒に」と会員に迎えます。

○チラシや広報、タウン誌やSNSで新婦人を広く知らせ、「会員大募集」とよびかけましょう。

○9月、10月の19日、25日の連帯期間や10月19日「創立63年仲間づくりビッグデー」は計画をたて、どの班も行動して仲間を迎えましょう。班と会員の「大会めざす親子ばと賞」に挑戦しましょう。

2025年9月6日
新日本婦人の会第194回中央委員会

第32回全国大会をめざす仲間づくり親子ばと賞

- 1、「平和の2署名(軍拡反対憲法、核兵器禁止条約批准)」をそれぞれ5人以上集め、会員を増やした会員
 - 2、仲間づくりの目標を持ち、達成した班
 - 3、仲間づくりの目標を持ち、達成した支部、都道府県本部
- *2、3は第31回全国大会時現勢を突破していること。期間は2025年2月1日~11月3日

〈生きいき大きな班へ—5つのポイント〉

- ①班会—会員みんなに知らせて毎月開催、誕生会や歓迎会など工夫して
- ②要求—おしゃべり・つぶやき・願いを運動や〇〇カフェ、要求別小組に。平和の活動を大切に
- ③新婦人しんぶん—しんぶんタイムで読んで、紙面で増やして、みんなで配達・集金
- ④仲間づくり—いつも運動やつながりで、チラシやSNSで知らせ、目標もって。意識して若い世代を
- ⑤班運営—みんなで役割分担、班委員会で相談、班ニュースの発行、オンライン活用も

班の仲間づくり6つのアクション

- ①しんぶんタイムを、班会でも要求別小組(サークル)でもゲストを気軽に誘ってとりくみ、入会をすすめます。
- ②「要求ある人とともに」をいつも大切に、宣伝行動で署名してくれた人、要求運動でつながった人に、「新婦人に入って一緒に」と声をかけましょう。
- ③働く次世代や20~40代のあらゆる結びつきを出し合い、各地や全国の次世代ミニ交流にも誘って、入会をすすめます。
- ④いまあるどの小組でも、会員を新たに迎えます。やりたいことで新小組をつくって、また原爆展などをプラスした体験会にゲストを誘って入会を訴えましょう。
- ⑤チラシやSNSで発信を強めて、まだ出会っていない多くの女性に新婦人を知らせ、「あなたも一緒に」と会員に迎えます。
- ⑥仲間を増やす目標をもち、達成に向け、みんなで相談しましょう。

「新婦人と農民連の産直運動 4つの共同目標」(2022/5/27改定)

- 1、新婦人と農民連(以下「私たち」)は、安全で新鮮でおいしい国産の農畜水産物を作って食べて、日本の食料自給率を向上させ、自らと家族の健康を守り、食文化を次世代へ継承します。
- 2、私たちは、お互いの顔と暮らしが見える交流を活発にして、持続可能な地域社会と農業の担い手づくりをめざします。
- 3、私たちは、気候危機の打開、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に大きな役割を果たす家族農業が大切にされる社会への転換を求め、アグロエコロジー、食料主権の確立をめざします。
- 4、私たちは、お互いの組織の発展に貢献する産直運動をめざし、定期的な協議をおこない、課題を共有して改善に努めます。



みなさん、連日のご奮闘、大変お疲れ様です。

今年の夏も統計史上最も暑い夏となり、酷暑とともに各地で豪雨災害などが相次ぎました。被害に遭われたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。

このあと提案される大会議案草案では、タイトルに歴史の岐路と打ち出しました。その意味については、いま日本も世界も、戦争と核兵器、気候危機、大軍拡・新自由主義の下での貧困・格差の拡大、極右、排外主義の台頭など、人類のいのちと地球の今と未来がかかった重大な局面にあります。いま向き合わないと間に合わない、いまがんばればいとおめられる、どちらに進むか、まさに歴史的岐路に立っているとの立場で据えました。

日本を見ても、「自民党政治にはうんざり」「暮らしを何とかしてほしい」と、参政党に投票した女性たちもいるでしょう。少数に追い込まれても内部抗争にあけくれる自民党、危険な逆流の台頭など、モヤモヤや不満、切実な要求を抱えるたくさんの方々が、

新婦人は本当に、魅力いっぱいなんです。たとえば、被爆80年の特別な年に開かれた原水爆禁止世界大会は見事でした。被爆者とともに築いてきた運動が国際政治を動かしてきたことを確信に、未来につながる次世代の躍動が、戦争も核兵器もなくそうとすすむ道への

あいさつ

いのちと地球を守ろう みんなで新婦人を大きく

新日本婦人の会会長 米山 淳子

あれかと話をしながらつづいて。事実や共感できる情報をどう届け、つながるかがカギです。新婦人で「いっしょに社会や政治のおしゃべりをしよう」とつながり、ともに行動する人がどんどん増えていけば、どれほど変わっていくか。ここにも、仲間づくりの大きな可能性があるのでないでしょうか。

希望を示しました。「新婦人に出会って運動に加わった」と94歳の被爆者・矢野美耶子さんの身の訴えは胸をゆさぶりました。全国ですみずみに新婦人をつくり、原爆展や署名を上げ、核兵器廃絶の世論を高めてきた歴史と運動、そして被爆80年の世界大会を直接体験に大きく位置付

け、170人を超えて送り出した次世代の発言など、さまざまな場面で新婦人の活動が大会をゆたかにしていると感じました。女性平和基金招待者をはじめ海外代表からも、「新婦人はすごく大きな役割を果たしている」と、たくさん声をかけていただきました。女性の要求を実現させていくためにも、さらにこれから本格的に、改憲や排外主義の動きに反対し、暮らし、平和・民主主義、ジェンダー平等をすすめていく共同を広げていくうえでも、いま新婦人の組織が大きくなること、なんとしても求められます。この中央委員会は、11月に開催する全国大会の議案をあげること、仲間づくりを必ず前進させて大会を成功させること。この二つについて、討論と意思統一をする大事な会議となります。みなさんの活発な議論を願います。あいさつとさせていただきます。